

講義コード	1116220001
講義名称	経営学A 01<春>
科目英文名	Business Management A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	BUSA1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
齋藤 巡友

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生み出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠だけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては殆ど全ての人にとって有用なものとなるであろう。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、適宜事例をとりあげて説明することによって、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感してもらう。
学習（到達）目標	本講義の学習目標は以下の通りである。 1. 経営学がどのような学問であるかを理解する 2. 経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。 3. 新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
第2回	経営学とは
第3回	企業の定義とその特徴
第4回	株式会社について
第5回	経営戦略1：企業戦略と事業戦略
第6回	経営戦略2：環境・資源分析
第7回	経営戦略3：競争戦略（基本戦略）
第8回	経営戦略4：競争戦略（市場地位別の戦略）
第9回	経営戦略5：多角化戦略
第10回	経営組織1：組織の設計
第11回	経営組織2：組織の形態
第12回	経営組織3：組織文化
第13回	経営組織4：組織学習
第14回	経営組織5：モチベーションとリーダーシップ
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	<p>①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、経営学の基礎的な知識や概念の理解度を確認するための問題を短答式・記述式を組み合わせた形式で出題する。成績評価における点数配分は70%</p> <p>②授業内容の理解度を確認するための小課題・小テストを授業期間中に複数回出題する。点数配分は30%</p> <p>※なお、講義に対して積極的に参加（講義中に発言するなど）している学生には別途加点する。</p>
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	東北大学経営学グループ	ケースに学ぶ経営学（第3版）	学生独自購入	978-4-641-18448-0	有斐閣	

参考文献	適宜指示する。
事前および事後学習の指示	事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は講義時に指定する）。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探してみることを。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	経営学、企業と会社、経営戦略論、経営組織論

講義コード	1530520000
講義名称	社会心理学[2] <春>
科目英文名	Social Psychology
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC1410
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
岩田 考

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① シンクタンクでの調査業務の経験もふまえ授業を行う
	実務経験のある教員による授業② マーケティング調査業務の経験もふまえ授業を行う		

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	<p>社会心理学は、人間の行動を社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。授業では、アイデンティティや流行などみなさんの身近な具体的な事例をとりあげつつ、社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の研究を紹介します（授業を行う時期に注目されている現象なども取り上げるため、扱う現象を若干変更する可能性があります。）</p> <p>講義を聴いていないと単位修得は難しいため、就職活動などで欠席が多くなることが予想される学生は注意して履修してください。また、社会学の基礎知識や社会学への興味関心がまったくないと理解が難しい部分があります。社会学科以外の学生の方は、慎重に履修してください。なお、何らかの配慮を必要とする場合には、講義が開始してからなるべく早い時期に相談するようにしてください。</p>
学習（到達）目標	<p>「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合がありますが、社会学的な研究への寄与を常に念頭においたものです。社会心理学を学ぶことによって、社会学と心理学の差違や共通点を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。社会学に固有の考え方を、社会心理学や心理学との関係において理解することが最終的な学習目標です。「純粋」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の概要
第2回	社会心理学とは
第3回	自己(1) 自己をめぐる現代的〈問題〉
第4回	自己(2) 映像から自己について考える ※映像は数回の授業にわたって見ます。
第5回	自己(3) 心理学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
第6回	自己(4) 社会学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
第7回	集団(1) 集団とは・集団における意志決定
第8回	集団(2) 映像から集団における意志決定について考える ※映像は数回の授業にわたって見ます。
第9回	集団(3) 集団における課題遂行と集団間差別
第10回	流行と集合行動(1) 集合とは・流行とは
第11回	流行と集合行動(2) 映像から現代のファッションの流行について考える
第12回	流行と集合行動(3) 流行と集合行動のゆくえ

第13回	心理学化・心理主義化 心理主義化する社会(1)
第14回	心理学化・心理主義化 心理主義化する社会(2)
第15回	試験と解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>①論述式の試験を実施する(60%)。 ただし、履修者数や配当教室によって、試験をレポートに変更する可能性がある。</p> <p>②その他は、各領域終了後に行う小テストおよび授業内容に関する課題（感想）（計40%）</p>
---------------	---

参考文献	<p>浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌－失われた十年の後に－』勁草書房 浅野智彦・岩田考ほか著 2010『考える力が身につく社会学入門』中経出版 安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門4 社会心理学』岩波書店 池田知子・遠藤由美 2009『グラフィック 社会心理学 第2版』サイエンス社 岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバル－親密さのゆくえ』恒星社厚生閣 松井豊・上瀬由美子 2007『社会と人間関係の心理学』岩波書店 末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会 『シリーズ情報環境と社会心理1－8』北樹出版 『ニューセンチュリー社会心理学1－6巻』北樹出版 『対人社会心理学重要研究集1－7』誠信書房 ※その他の参考文献は講義中に紹介します。</p>
事前および事後学習の指示	各回の授業は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習をしてください。また、事後学習として、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	社会心理学、社会学、心理学、心理学化・心理主義化、現代社会

講義コード	1765230000
講義名称	日本文化史A <春>
科目英文名	Cultural History of Japan A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3430
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
南郷 晃子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	日本の説話や伝承の世界には、「ウチ」と「ソト」という空間認識が反映されているものが多くあります。「ソト」は村の外であることもあれば、海のむこう、他界であることもあります。そしてその間にはウチとソトをわける「境界」があります。そして物語はしばしば境界を越えるものにより伝えられていきます。本授業では、ウチとソト、そして境界をキーとして伝承世界を紐解いていきます。また伝承を伝えるものとしての境界を行き交う人々にも焦点を当てます。講義形式ですが、コメント・意見をもとめます。授業を通して活発に議論をしていきたいと思っています。
学習（到達）目標	説話、伝承世界を中心にウチとソトの認識について理解をする。その上で物語世界のみならず社会のあちこちに引かれる「境界」を意識化できるようになる。また表象と境界について自分で考察し分析できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	境界と説話、伝承
第3回	境界をみつめる
第4回	ウチからソトへー虫を送る
第5回	境界のソトからくるものー疫神
第6回	境界のソトからくるものー来訪神
第7回	境界のソト①ー海のむこうの世界
第8回	境界のソト②ー山中他界
第9回	ウチとソトの葛藤①ー歓待と殺人の伝承
第10回	ウチとソトの葛藤②ー共同体と憑きもの
第11回	ウチとソトをつなぐもの①ー憑かれるもの
第12回	ウチとソトをつなぐもの②ー供儀、生贄
第13回	ウチとソトをつなぐもの③ー芸能者
第14回	身近な説話世界
第15回	まとめと試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	試験は記述を中心とします。授業をふまえてA4,1枚程度の論述を行なってもらいます。 また「その他」の50%は、毎回の授業内で課題を出すためその回答です。ChatGPTなど生成AIの利用はみとめません。5回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。
---------------	--

参考文献	赤坂憲雄『境界の発生』（講談社学術文庫、2002年）小松和彦『異人論』（青土社、1985年）
事前および事後学習の指示	授業用に配布するレジュメに含む説話をあらかじめ読み、内容を把握しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	14D5210000
講義名称	農業経済論Ⅰ <春>
科目英文名	Agricultural Economics Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2590
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
大島 一二

授業形態	講義	プレゼンテーション
------	----	-----------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐる各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。 本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、日本と世界各国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。 農業経済論Ⅰでは、農業経済、フードシステムにかんする理論的な学習を行う。
学習(到達)目標	本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

講義・演習計画

回	内容
第1回	序論、講義の進め方、評価、参考書についての紹介
第2回	経済発展と農業、農業部門の縮小、エンゲルの法則、
第3回	世界人口の急増と食料
第4回	食料自給率の低下と影響
第5回	農地と地代、農業技術の進歩、農業機械化
第6回	農業の経営組織、大規模経営の育成
第7回	高齢化と新たな農業の担い手
第8回	農業と協同組合(1) 日本の農協組織
第9回	農業と協同組合(2) 中国の農民專業合作社
第10回	農産物貿易と貿易保護
第11回	フードシステムの発展と食品産業
第12回	食品産業のグローバル化(1) 農業企業
第13回	食品産業のグローバル化(2) 食品加工産業
第14回	食品産業のグローバル化(3) 外食産業、食品小売業
第15回	まとめ

成績評価の方法(割合)

「成績評価の方法(コメント)」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<p>対面授業を想定し、以下のように配点する。</p> <p>M-Portによるレポート（必修、1回、50点）、課題（5回各10点、50点）を基本とする。</p> <p>さらに講義への出席を促進するため、出席点30点（15回各2点）を加点する。</p> <p>合計130点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。</p> <p>59点以下D、60～69点C、70～79点B、80～89点A、90点～130点S。</p>
---------------	--

参考文献	<p>1)速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）</p> <p>2)荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学[第4版]』岩波書店 2015年</p> <p>3) 生源寺真一『農業経済学』東京大学出版会 1993年</p> <p>4) 時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社 1998年</p> <p>5) 大島一二・山田七絵『朝日緑源, 10年の軌跡 - 中国における日系農業企業の挑戦』農林統計出版、2019年</p> <p>6) 大島一二編著『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房、2015年</p>
事前および事後学習の指示	新聞を毎日読むよう習慣付けること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	日本農業、食料自給率、フードシステム、農協